

平成 22 年 4 月 20 日現在

研究種目：基盤研究 (B)
研究期間：2007～2010
課題番号：19330112
研究課題名 (和文) 若年層における非正規雇用と社会参入に関する組織領域間の比較研究
研究課題名 (英文) Youths' atypical employment and their social integration;
a comparative study between different organizational fields
研究代表者
原山 哲 (HARAYAMA TETSU)
東洋大学・社会学部・教授
研究者番号：90156521

研究代表者の専門分野：社会科学
科研費の分科・細目：社会学・社会学
キーワード：社会集団・組織論、若年層雇用

1. 研究計画の概要

20 世紀後半、技術の研究開発と従業員の能力の養成とが、男性の安定雇用の実現を促進した。雇用をめぐる社会参入について、男性の企業への統合と女性の離職というジェンダーによる差異の議論から、若年層における非正規雇用が問題化されている。

日本の若年層の雇用をめぐる社会参入について、本研究は、異なったセクター、すなわち組織のコンテクスト＝組織領域 (organizational fields) の比較に焦点をおいている。セクター内の同質性、セクター間の異質性は、経営側の戦略と若年層の側の戦略との関係に依拠している。

異なるセクターにおいては、技術的効率性、市場競争、社会的近接性の要件の異なる関連が見出されると考えられる。若年層においては、技術的効率性、市場競争の要件を重視する戦略ではなく、社会的近接性の重視の戦略が、正規雇用と非正規雇用との対立を帰結していると言えるだろう。

本研究の目的は、若年層における非正規雇用と社会参入の問題について、組織領域内の同質性、および組織領域間の差異をあきらかにすることにある。なお、社会参入にたいする障害としての雇用の不安定の問題は、非正規雇用と正規雇用との両者の関連において解明される必要がある。

このような研究の目的を達成するために、インタビュー、質問票など、質的方法、量的方法による調査を実施する。また、海外の研究者との研究交流 (国際学会、ワークショップ) をとおして、国際比較の視座をとりいれる。

2. 研究の進捗状況

2007 年度～2009 年度に、文献・資料・メディアの分析、および、インタビューと自由記述式質問票の質的調査、数量的調査を、下記のように実施した。

(1) 社会表象の分析

19 年度から 20 年度に実施した文献、資料の収集、検討、メディアの内容分析をふまえて、21 年度は、国外の研究について、文献、資料を検討するとともに、いわゆる「フリーター」や「非正規雇用」についての社会的表象、社会的定義について解明した。

(2) 組織領域間の質的調査

組織領域として、公共性を重視する病院のケアのセクター、市場競争を重視する自動車企業グループの販売セクターで、2007 年度～2008 年度に、インタビュー、自由記述式の質問票による質的調査を実施し、2009 年度にかけて、結果の分析を深めた。これら二つのセクターの他に、事務、サービスの部門の非正規雇用者が集中する若年層就業支援機関 (ジョブカフェ) において、若年者への自由記述式の質問票による調査を実施し、結果を分析した。

調査結果をふまえて、2008 年 5 月、フランスの研究者 2 名 (フランス労働経済社会学研究所 LEST ほか) を招へいし、東京しごとセンター (東京) でシンポジウムを開催した。また、2008 年 12 月、前年度と同様、フランスの研究者 2 名 (フランス労働経済社会学研究所ほか) を招へいして、セミナーを東京日仏会館 (東京) で開催した。

(3) 若年層への数量的調査

若年層の社会参入における転職の問題に焦点をおき、大卒者を対象に、大学のキャリ

ア支援センターとの協力によって 2007 年度に郵送とアンケート・サイトとを併用した調査を実施し、2008 年度～2009 年度に結果の分析おこない、考察した。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

2007 年度から 2009 年度に実施してきた文献・資料・メディアの分析、および、インタビューと自由記述式質問票の質的調査、数量的調査の結果の分析、考察にもとづいて、2010 年度は、報告書を執筆、刊行する。

これまで、フランス労働社会学会研究所 LEST の研究者との研究協力により、実施した調査の経験的データの分析から、組織領域間の比較についての理論化に到達している。

とりわけ、若年層の社会参入における組織領域間の差異をめぐって、公共性、市場競争、近接性の次元との関連があきらかにされている。調査結果から導出された、これらの組織領域間の多次元性は、コンヴェンション理論 (theory of conventions) の展開に寄与すると評価できよう。

4. 今後の研究の推進方策

今後は、国際交流をとおして、調査結果の分析、考察をふかめることにより、研究を推進する。

2010 年度においては、文献・資料の分析、および、質的調査、数量的調査の結果の分析、考察について、報告書を執筆、刊行する。

これらの分析、考察について、2010 年 7 月スエーデンで開催される、国際社会学会 (ISA) の労働社会学部会 (RC30, Sociology of work) において、研究代表者の原山哲とフランスの研究協力者 (P. モッセ、フランス労働経済社会学研究所 LEST) とが、共同で研究発表の予定である。

2010 年 9 月、フランスの研究者 2 名 (フランス労働経済社会学研究所、およびフランス国立芸工院 CNAM) とともに、シンポジウム「若年層の社会参入」を東京で開催する。

さらに、これらの調査結果の公共セクターの部分を中心に、英語版の著書、P. Mosse, T. Hararayama (eds), *Hopital and nurses, lessons from a France-Japan comparison*, 2011, Paris, John&Libbey Eurotextes が刊行の予定である。

このような研究の推進方策により、調査結果の分析と考察を、国際水準において貢献できるものとするをめぐらしている。

4. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 1 件)

島崎哲彦、大谷奈緒子、小川祐喜子、「マス・メディア報道からみる非正規雇用と若年無業者の現状」東洋大学社会学部紀要 47-2、2010 年 3 月、pp. 5-18. 査読無

[学会発表] (計 3 件)

Tetsu Harayama, Philippe Mosse, “The construction of nurses’ professional worlds; comparing France and Japan evolving conventions”, European Sociological Association, RN19 (Sociology of professions) 4 September 2009, Lisbon University (Lisbon).

大西克明、原山哲、「若者無業者の労働市場に対する自己規定—若者就労支援利用者の辞職・未就労理由をめぐって—」

日本社会学会、一般報告、2008 年 10 月 11 日、立教大学 (東京)。

Tetsu Harayama, Yukiko Ogawa, Katsuaki Ohnishi, Yoshiro Terada, Philippe Mosse, “Japanese youths’ world of work”, International Sociological Association, RC30 (Sociology of Work), 7 September 2008, University of Barcelona, Barcelona.

[図書] (計 1 件)

Philippe Mosse, Maryse Boulongne-Garcin, Toshiko Ibe, Tetsu Harayama, *L’hopital et la profession infirmiere*, 2008, Paris, Seli Arslan. (191 頁)

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況 (計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

+ [その他]
ホームページ

<http://socproj.toyo.ac.jp>